

2013年(平成25年) 3月10日 毎月10日発行

# フレッシュ21

発行所 〒300-4205 つくば市安食 2530-64 ☎&FAX029(865)3321  
 発行人 新つくばジャーナル社 E-mail kuroda-seiji@ams.odn.ne.jp

## 生きる目標「生涯青春」を実践

「年齢を重ねただけで人は老いない。理想を生く時に初めて老いが来る」と述べたのはドイツ生まれの詩人ハムエル・ワルデンであるが、「まさしくその通り」とすでに文化として庶民の間に普及定着しているカラオケが、余生を託し、流行歌を初め民謡、童謡などの指導で活躍している皆藤稲心さんに登場願った。

### ○カラオケ愛好会立ち上げ

皆藤さんは今年66回目の年男ということで、72歳になるが、行動力や考え方はまさに若者まっさらの様相である。その皆藤さんがカラオケに魅了された理由が、生涯教育の実践対象として折からカラオケブームの最中に、好会を立ち上げた理由で、次のように語っている。

### 「最初立ち上げた会は、カラオケつみ会ですが、設立の動機は自分の身に則したことです。私は65歳の定年まで会社勤務をしていました。高齢化時代に向けて、高年齢世代に如何に楽しく年を暮らすか同世代の人のことも頭を置いて考えました。」

そしてカラオケに思い至ったのは、1冊の本による触発が大きいという。「石川嘉三」という人の「定年の身仕度」という本でしたが、その本によつて私は人生における第一の目的の重要に気づかされたんです。」

南太平洋上を航海中魚雷に遭い、父が戦死したのは昭和18年のことだった。以来母は、14歳を頭に6人の子も達を育てあげた。それでも「笑顔」を忘れることのない、5年前99歳で他界した。

母に実行できなかった想いを、定年後「孤立無縁な高齢者の為に」とカラオケを通じ、仲間づくりをすすめた。地元同好連

皆藤さんは第二の人生にカラオケを遊ぶまでに60におよぶ趣味の団体を調べたという。

### 「老年の健康に最適」

「カラオケの効用は、先ず大層で歌うことでストレスを解消します。歌詞を覚えるのに脳も鍛えられます。そして何を理解するに心が豊かになります。さらに同好の会が寄り集まることで、孤独感から解放され談笑がつきませ

## 皆藤 稲心さん

## この人の活躍 16 カラオケで理想の老後を送ろう



▲上手に歌うコツなどをユーモアのある勉強でたちまち上達する



▲人気のあるギターの手指導

はたまた40を超すほどに販路団体として、さらに密接な関連団体として「健康カラオケ花」を立ち上げている。こちらはカラオケを楽しむと同時に、老後の健康増進に役立っている。同好会はこれからの効用で、同好会はまだまだ40を超すほどに販路団体として、さらに密接な関連団体として「健康カラオケ花」を立ち上げている。こちらはカラオケを楽しむと同時に、老後の健康増進に役立っている。同好会はこれからの効用で、同好会

## ご挨拶

### 皆藤 稲心

（健康カラオケササガ）

- ① 新曲を歌う
- ② 当地のソングは手づくりの地図を作成
- ③ 温故知新の曲に出会う
- ④ 音楽を楽しむリズムにS index.html



▲独特の人生哲学を語る皆藤さん。講演には定評がある。